

情報連絡員報告総括表（令和6年7月分）

三重県中小企業団体中央会  
連絡員総数 40名  
回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇人員員			業界景況				
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	増加	不変	減少	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品	1	3		1	3	4			1	3	4					1	3											
	繊維工業	1		2		3	2	1			2	1						2	1						1	2			
	木材・木製品			1		1			1									1									1		
	紙・紙加工品		1	1		2	2			1	1	1	1	1	1	1		2							1	1	1		
	印刷		1			1		1			1	1													1		1		
	化学・ゴム																												
	窯業・土石製品		2	1		3	1	2				2	1						3							2	1		
	鉄鋼・金属	1				1		1			1								1							1			
	一般機器	1	2		2	1		2	1		3	2	1					2	1						2	1	2		
	電気機器			1		1		1			1	1	1						1							1		1	
輸送機器			1			1		1		1		1													1		1		
その他																													
小 計	4	9	7	3	16	1	7	10	3	2	16	2	12	8			16	4		1	13	6			2	15	3	10	10
非 製 造 業	卸売業		2			2	1	1			2		1	1			2										2		
	小売業	1	3	2		6	2	4		4	2	4	2	4	2		4	2								6		4	2
	商店街		1			1	1				1		1				1									1		1	
	サービス業	1	2	1			1	3		1	3	1	2	1	2	2		2	2							4		3	1
	建設業		2	2			1	2	1		3	1	3	1	3	1		3	1							3	1	2	2
	運送業		1					1			1		1				1									1		1	
	その他		2				2				2		2				2									2		2	
	小 計	2	13	5		9		6	13	1	1	16	3	1	14	5		15	5							19	1	15	5
合 計	6	22	12	3	25	1	13	23	4	3	32	5	1	26	13		31	9		1	13	6			2	34	4	25	15

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

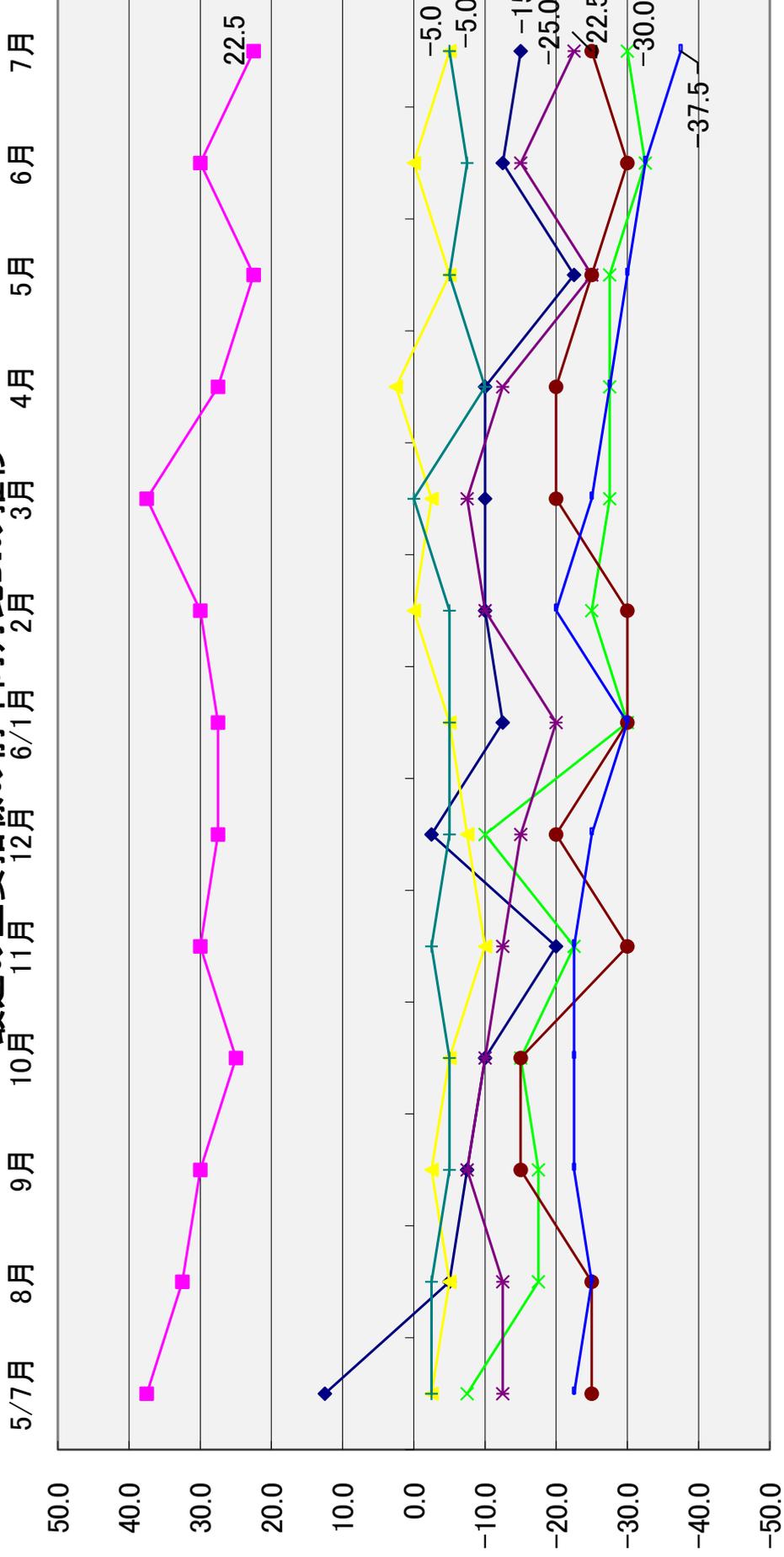
(令和5年7月～令和6年7月)

三重県中小企業団体中央会

	連絡員総数 40名												増減	
	5/7月	8月	9月	10月	11月	12月	6/1月	2月	3月	4月	5月	6月		7月
売上高	12.5	-5.0	-7.5	-10.0	-20.0	-2.5	-12.5	-10.0	-10.0	-10.0	-22.5	-12.5	-15.0	-2.5
販売価格	37.5	32.5	30.0	25.0	30.0	27.5	27.5	30.0	37.5	27.5	22.5	30.0	22.5	-7.5
取引条件	-2.5	-5.0	-2.5	-5.0	-10.0	-7.5	-5.0	0.0	-2.5	2.5	-5.0	0.0	-5.0	-5.0
収益状況	-7.5	-17.5	-17.5	-15.0	-22.5	-10.0	-30.0	-25.0	-27.5	-27.5	-27.5	-32.5	-30.0	2.5
資金繰り	-12.5	-12.5	-7.5	-10.0	-12.5	-15.0	-20.0	-10.0	-7.5	-12.5	-25.0	-15.0	-22.5	-7.5
設備操業度	-25.0	-25.0	-15.0	-15.0	-30.0	-20.0	-30.0	-30.0	-20.0	-20.0	-25.0	-30.0	-25.0	5.0
雇用人員	-2.5	-2.5	-5.0	-5.0	-2.5	-5.0	-5.0	-5.0	0.0	-10.0	-5.0	-7.5	-5.0	2.5
業界景況	-22.5	-25.0	-22.5	-22.5	-22.5	-25.0	-30.0	-20.0	-25.0	-27.5	-30.0	-32.5	-37.5	-5.0

(注1) 「D I」はデیفェージョン・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする  
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



- ◆ 売上高
- 販売価格
- ▲ 取引条件
- ✖ 収益状況
- 資金繰り
- 設備操業度
- 雇用人員
- 業界景況

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料である野菜の供給不足が続いている。また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がりが経営を圧迫する状態が続いている。今年の36℃を超える高温、乾燥の影響により、梅、紫蘇等の夏場に収穫する原料への影響が出ており、生産量の減少が懸念されている。
	醤油味噌	生産、販売ともに振れ幅の大きい月となった。円安への日銀介入により、円安は是正されつつあるが効果の持続性には疑問がある。政府備蓄米の減少により、原料米の価格が心配である。市場価格は上昇しており令和6年産米の流通が始まるまで、政府の対策に期待する。7月中旬から関東以西は猛暑だが、東北地方の梅雨末期の大雨、洪水で米の作柄が心配である。猛暑や天候不順による、農作物の作柄への影響が事業者にとっては気にかかる。
	他に分類されない食料品 製造業	近頃は地区内で外壁の塗装工事が増えている。工場においても屋根や天井、排水桝の補修・改善により環境対策が行われている。日本政策金融公庫による貸上げ貸付利率特例制度があり、ありがたい。
	製麺	全国製麺組合連合会の理事会が7月22日に対面とオンライン形式で行われた。組合数の減少に歯止めが利かない状況である。新たに組合の在り方などが議題に上がった。また、7つの部会が発表になり国産小麦を使用した生中華麺品評会も今回で3回目となり、米粉展示会の募集も募る。今年も製麺通信講座の作成も行う。今後の取組にも参加していく見込みである。全国大会が10月22日東京で開催される。
木材・木製品	木材	物流の2024問題等による燃料費、輸送費等のコスト高騰、需要の低迷により引き続き厳しい経営環境が続いている。
紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。
	古紙	7月の古紙仕入れ量は、段ボール・約97±3%位、新聞、チラシ・約90±9%程度、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約94±4%程度である。全国製紙原料商工組合連合会の理事長が交代して新体制となり、製紙産業界の2024年問題の運賃値上げや手形決済期日60日以下への短縮や長年懸案の古紙の持ち去り行為と持ち去り古紙の買取を法律違反とする立法化等の引継ぎと実現に向けて役員会で承認された。円ドル為替レートが160円台から150円台となり6~8%の大きな経済環境変化なのであるが、日本国民全体にお金回り更なる幸せな消費活動に結びつくには時間が必要である。日本国への海外旅行観光客の経済効果が東京都や大阪府などの大都市圏や有名観光地の京都府や三重県の伊勢神宮や長島スパワールド等である。製紙会社様からの製紙原料古紙の発注は前年並みであるが、同業者も含め古紙の在庫は殆んど無く古紙の集荷も一部の業者を除いて少ないとのことである。海上コンテナ等の使用料金の大幅な値上げが収まり輸出価格の高騰が懸念される。生中温前後の猛暑の中でも円安による資源物の高騰で古紙や古着の持ち去りやゴミの置き去り行為等は多品種少量の傾向もあり発生し続けており、全国組織も新体制となり国会での立法化に期待している。
印刷	印刷	県印刷案件において、当組合が要望してきたコンテンツ版バイドール契約を結ぶものが出来た。おそらく、新年度より県の仕様書が見直された結果だと思われるが、コンテンツ版バイドール契約とは、受託者に著作権を残すことが前提となる中で、仕様にはこれまで記載されていた【著作権は成果品の引き渡しをもって三重県に譲渡される】とも記載されており、内容の理解がなされていない。根本的に職員の理解がないまま、コンテンツ版バイドール契約というワードが一人歩きしている。ただし、組合員以外のコンテンツ版バイドール契約の理解がない場合、こういった仕様がまかり通ってしまうことは非常に危惧するところである。
鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、前年同月よりもやや増加した。従来の自動車関係の受注を中心に売上が徐々に戻ってきている。引き続き堅調な状況が期待できる。
一般機器	四日市市	各企業により差はあるが、引き合いは停滞している、組合員の業況からも景気が良いとする業界はあまり見られない。自動車業界の低迷もあり、なかなか設備投資が進んでいない状況が続いている。 また、7月より鋼材価格がさらに上昇したため、製品への価格転嫁を継続的に進めていく必要がある。
	津市	昨年度と比較し売上は増加したが、一部の取引先による取引量が多かったためであり、それを除くと昨年並みか少し減少している。自動車関連でEV関係が思うほど伸びていない状況で在庫の積み増しをしているため、いずれその反動が来ると予想する。残業もほとんどない部署がふえてきているため数字で見るとよりは悪化していると感じる。
	伊勢市	工作機械業界は少し良くなってきている。例年の盆休みの設備投資の関係と思われる。自動車関連は厳しい状態のままだが海外向けは少し良くなっている。全体的には悪い状態が続いており、今年中の回復は出来ないと思われる。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
電気機器	鳥羽市	受発注量は一段と好転せず制御関係は80%と変わらず推移しているが半導体関連が非常に悪く10%以下となった。
輸送機器	伊勢市	中国の景気回復には時間がかかりそうで、当面厳しい状況が続くそうである。物量減少により、残業時間も減少しており、生活費への影響があるなど、消費への悪影響も見える。
	青果	<p>野菜前半：全体的に入荷が順調である。中でも長野県産と群馬県産キャベツ、長野県産レタス白菜がお買い得、岐阜県産のトマトも安定して入荷している。天候に価格が左右されないキノコ類、特に徳島県産シイタケ、長野県産エノキ、エリンギが安定して入荷しており、お買い得である。一方、兵庫県産のたまねぎ、静岡県産と愛知県産のジャガイモは高値が続いている。</p> <p>野菜後半：入荷量や価格は全体的に昨年並である。高値であった青森県産ニンジンも安定し価格も落ち着いた。県内産、岐阜県産トマトは梅雨明けとともに入荷が増え味も良くなった。鹿児島県産、宮崎県産の新ゴボウは入荷も増えた。サラダ、キンピラ、天ぷらに香りを楽しめる。</p> <p>果物前半：全体的に品質は良いが価格は高値で推移している。北海道産サクランボは入荷のピークであるが高止まりである。モモは山梨県産、愛知県産、和歌山県産の入荷が最盛期であるが、昨年より入荷量が少なく高値が続いている。愛知県産ハウスみかんは味も良く、贈答用に人気で値上がりしている。愛知県産スイカが終盤に向かい石川県産や長野県産に移りつつある。</p> <p>果物後半：静岡県産、愛知県産のアールスメロン、北海道産、青森県産のタカミメロンは安定して入荷し価格は昨年並み。モモは昨年より入荷が少なく高値が続く。スイカは長野県産山形県産が中心に特に長野県産は瑞々しく美味で人気抜群である。ブドウ類はシャインマスカットが今年も人気で入荷量も増えてきた。</p>
	自転車	現在の経済情勢は海外製品の原価コストに多大な影響を受けている。今回の円安相場と原油高を起因とした海上運賃の値上げによりさらなるコストアップが進んでいる。各メーカーについては、春需要の期間は価格据え置きとなっていたが、7月より、現行価格の5～13%アップの価格改定を打ち出してきた。この上昇分に合わせた価格転嫁は進めていく必要がある。このような状況において材料の仕入価格やエネルギー価格の上昇をもたらす円安のマイナス面は無視出来ず、店じまいを考える同業者の声を聞く機会が増えた。また、ショップを取り囲む消費者においては、これを背景に食費を減らし、生活品や自転車等の買い換えは無く節約する動きが目立つ。
	電器	今年の夏商戦は、猛暑でエアコンなどの販売は県の省エネ家電購入キャンペーンもあり好調である。現場の量販店においては、日数がかかる工事内容で出来ず断られる事もあるようで、その分地域店へ回ってきているか不明だが、手が足りないなどの話も出ている。(高齢による仕事の消化速度の低下も考えられる。)

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	石油	非常用自家発電設備を設置した住民拠点SSなどの災害時対応能力を高めることを目的に、今年度も10月13日の日曜日に「災害時対応実地訓練」を津市内のSSで実施する。この訓練は毎年県内の各支部を回り支部所属等のSS経営者や従業員が参加し実施している。東日本大震災以降、近年では平成28年熊本地震、平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨、今年の1月に発生した能登半島地震で大規模な被害が発生した。 その中で自家発電設備を備え、災害時に地域の燃料供給拠点となる、「住民拠点SS」の重要性が改めて認識され、災害時に備え訓練を行うことにより県民生活の安心・安全の確保に寄与する事を目的とする。
商店街	熊野市	コロナ禍以降に延期していたイベント等も徐々に復活されてはいるが、高齢化や資金繰りなどによって中止になってしまった祭りもあり、この地方としては今後の活性化を考えるにあたりどういった方法があるのかを模索することが重要か考える。商店街としても同様で空き店舗が増えていく現状を考えれば後継者問題を行政も含めて取り組んでいくことが急務である。
	旅館	梅雨の上がりの荒天は例年より少なかったが、暑さは格別で外出を控えるようなことが言われていることから海水浴場も少なくこれからの夏のシーズンが心配である。8月に台風の影響もなく、好天が続いて客足が伸びることを祈念する。対前年同月比80~90%、2019年同月比60~70%程度のものである。
	警備	例年の如く、受注数がこの時期は増える。しかし、警備員不足の上、熱中症による欠勤が多く苦慮している。
建設業	総合工事業	6月末時点の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月から微減の状況である。国発注工事においては増加した。県、市町発注工事で減少となった。
	内装工事業	7月は前年同月の売上が以上に多かったため、対前年同月比で大幅にマイナスとなった。8月はお盆休みもあり、売上は少ない。
	水道工事業 (亀山市)	亀山市からの業務受託の量水器の取替個数は前年に比べ増加した。漏水については、前年比では減少している。緊急の対応による時間外労働による組合員への負担は減少している。組合員が減少する中で、漏水当番による労働時間の減少は良いと考えられる。

## 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	今年も猛暑日が続いている。麺の需要も増えてくることを期待する。10月に最低賃金の引き上げがあり、益々厳しい状況である。色々と情報を教えて欲しい。
印刷	印刷	8月に新政みえ、自由民主党との懇談会があることから、コンテンツ版パイプドール契約の仕様の修正を要望する。
繊維工業	衣料縫製	今後の賃金の値上げ、光熱費の高騰により売上に大きく影響している。中小企業への補助をもっと考えてほしい。
一般機器	四日市	物価上昇、賃金アップ、人手不足と事業環境は厳しい状況が続いている。中小企業の今後の経営環境が改善されるよう引き続き細やかな支援をお願いしたい。
サービス業	旅館	インバウンド客がゴールデンルートより三重へ入り易いような二次交通手段と格安なレールバス等を企画して実行しないと、中部の他県に退れを取るようになる。早急に官民挙げて取り組むことを要望する。